

栄養教育実習

到達目標	A(100点)	B(80点)	C(60点)	D (1つでもあてはまれば不合格)
1 集団指導または個人指導栄養指導の立案、実施、評価の一連を考案することで理論を適用できる (D)	個別指導では、行動科学理論を活かした模擬個人栄養教育、病室訪問シミュレーション演習の実践を、また集団指導では想定された場や対象をもとに模擬集団栄養教育を立案、実施、評価の一連をグループで主体的協力で考案できる。これらの過程で行動変容理論や栄養管理プロセスを適用できる。	個別指導では、行動科学理論を活かした模擬個人栄養教育、病室訪問シミュレーション演習実践を、また集団指導では想定された場や対象をもとに模擬集団栄養教育を立案、実施、評価の一連を考案できる。これらの過程で行動変容理論や栄養管理プロセスの適用は理解できる。	個人栄養指導では、行動科学理論を活かした模擬個人栄養教育、病室訪問シミュレーション演習、個別栄養教育の実践を、また集団指導では想定された場や対象をもとに模擬集団栄養教育を教員の指導のもと考案できる。	個人栄養指導では、行動科学理論を活かした模擬個人栄養教育、病室訪問シミュレーション演習、個別栄養教育の実践、集団指導では想定された場や対象をもとに模擬集団栄養教育の考案ができない。
2 個人指導や集団指導の実演を通してコミュニケーション技法、教授法、基礎知識を適用することができる (D,F)	模擬教育実践を発表するため、準備の過程では栄養管理プロセスにそって教育計画を立案し、コミュニケーション技法、教授法、基礎知識、行動変容理論やモデルを適用できる。また指導教材にはレジュメやスライド、板書やワークシート、リーフレット等を適切にもちいることができる。さらに効果的な学習方法を図るため、グループ活動で自身の意見を述べつつ他者の意見を尊重しながら意見を集約してまとめることに主体的に参加し、話し合いでの要点を説明できる。講評から得た意見を、よりよい計画にしようとする意欲を表明できる。模擬指導の準備を主体的に協力して行い、自らおよび他者の模擬実践を入念に相互確認できる。	模擬教育実践を発表するため、準備の過程では教育計画を立案の過程で適用するコミュニケーション技法、教授法、基礎知識、行動変容理論やモデルを理解している。また指導教材にはレジュメやスライド、板書やワークシート、リーフレット等をもちいることができる。グループ活動で自身の意見を述べる、あるいは他者の意見を尊重することで、意見を集約してまとめることに参加できる。模擬指導の準備を主体的に協力して行い、自らの模擬実践を入念に確認できる。	模擬教育実践を発表するため、準備では教育計画を立案と過程を理解している。また指導教材にはレジュメやスライド、板書やワークシート、リーフレット等をもちいることができる。グループ活動で自身の意見を述べる、あるいは他者の意見を尊重することで、意見を集約してまとめることに参加できる。教員の指導のもと模擬指導の準備を行い、自らの模擬実践を入念に確認できる。	模擬教育実践を発表の準備で教育計画を立案と過程を理解していない。また指導教材にはレジュメやスライド、板書やワークシート、リーフレット等をもちいることができない。グループ活動への参加ができない。自らの模擬実践を準備できない。
3 自分の意見をまとめ他者に伝達・報告、討論し自身の知識や考えを説明できる (D)	個別・集団模擬教育実践は、単独または協力してグループで実施することに、主体的に責任をもって参加できる。また報告や振り返りにおいては、専門性をふまえた栄養教育に関して現在の自分の課題の見解を述べたり、他者や教員の意見や質問を受け答えできる。OSCEに参加し、現在の自分の課題を説明し、今後の栄養教育実践の見直しや発展させる提案や意欲を表明することができる。	個別・集団模擬教育実践は、単独またはグループで実施することに自分で責任をもって参加できる。また報告や振り返りにおいては、専門性をふまえた栄養教育に関して栄養教育に関して他者や教員の意見や質問を受け、現在の自分の課題と今後の見直しの見解を述べることができる。OSCEに参加し、現在の自分の課題と強みを説明できる。	教員の指導のもと個別・集団模擬教育実践は、単独またはグループの実施に参加できる。また報告や振り返りにおいては、専門性をふまえた栄養教育に関して栄養教育に関して現在の自分の課題の見解と見直しを述べることができる。OSCEに参加し、現在の自分の課題と強みを知る。	個別・集団模擬教育実践を単独またはグループで実施できない。栄養教育に関して現在の自分の課題や強み、見直しの見解を述べることができない。